

## 肺血管拡張療法

### ■ 肺血管拡張薬

肺血管を拡張させる薬は、その作用経路により3つに分かれます。重症度や薬の効果などに応じて、異なる作用を持った複数の薬を併用することもあります。

薬	PGI <sub>2</sub> 誘導体制剤 <sup>1)</sup> IP受容体作動薬 <sup>2)</sup> PGI <sub>2</sub> 製剤 <sup>3)</sup>	エンドセリン受容体拮抗薬	sGC刺激薬 <sup>4)</sup> PDE-5阻害薬 <sup>5)</sup>
作用経路	プロスタサイクリン経路 薬 → ↓	エンドセリン経路 薬 → ↓	一酸化窒素経路 薬 → ↓
作用	血管を拡張させる物質を増やす ↓	血管を収縮させる物質の働きを抑える ↓	血管を拡張させる物質を増やす ↓
投与方法	経口 吸入 注射 携帯型の輸液ポンプを使うことで、自宅でも24時間持続的に注入することが可能 • 静脈 • 皮下	経口	経口

1) プロスタサイクリン誘導体制剤、2) プロスタサイクリン受容体作動薬、  
3) プロスタサイクリン製剤、4) 可溶性グアニル酸シクラーゼ刺激薬、  
5) ホスホジエステラーゼ-5阻害薬

医療機関名・連絡先

沢井製薬株式会社

## よくわかる肺高血圧症

# 肺動脈性肺高血圧症って どんな治療をするの？

総監修 慶應義塾大学医学部 循環器内科 教授 福田 恵一 先生

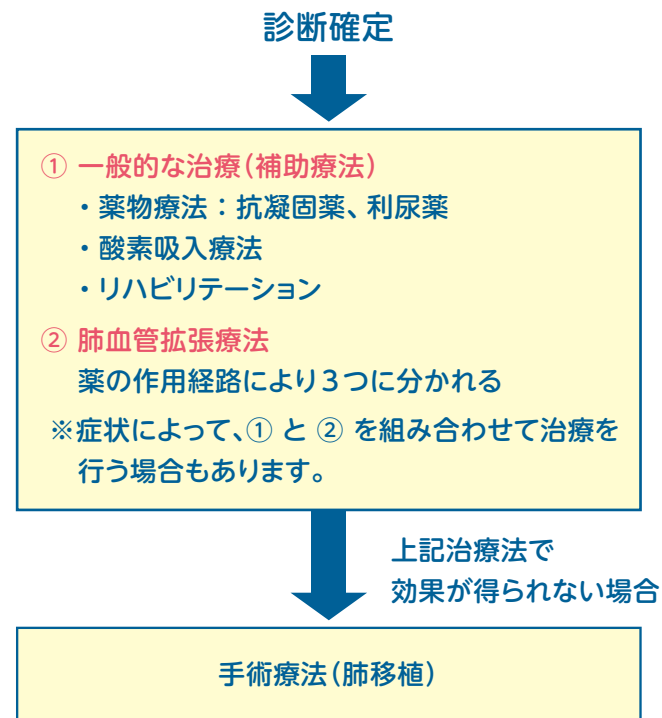
監修 慶應義塾大学医学部 循環器内科 講師 片岡 雅晴 先生



## 肺動脈性肺高血圧症って どんな治療をするの？

肺動脈性肺高血圧症の治療には、症状軽減や合併症予防を目的とした ①一般的な治療(補助療法)と、狭くなった肺の血管を拡げる ②肺血管拡張療法 があります。

主治医とよく相談しながら、患者さんにあった薬や方法で早期に治療を開始することで、普段と変わらない生活を送れるようになり、病気の進行を抑えることも可能になっています。



## 一般的な治療(補助療法)

### ■ 薬物療法

薬	抗凝固薬	利尿薬
作用	血液を固まりにくくすることで、血液のかたまり(血栓)が肺血管につまるのを予防します。	心不全をコントロールするために使います。尿量を増やすことで体内にたまった余分な水分の排出を促し、心臓や肺への負荷を減らします。

### ■ 酸素吸入療法

通常の空気より高い濃度の酸素を吸入し、体に不足した酸素を補う方法です。肺動脈性肺高血圧症が進行すると、心臓から血液を送り出す力が弱くなるため、全身の酸素が不足します。そのため、酸素の継続投与が必要な場合には、在宅酸素療法を行うことがあります。



### ■ リハビリテーション

患者さんの状態によって内容・時間・頻度などが異なりますので、主治医の指示に従ってください。

(詳しくは、よくわかる肺高血圧症シリーズ「肺高血圧症患者さんの呼吸法と日常生活動作のポイントは？」をご参照ください。)

